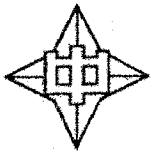


令和5年度さいたま市立与野南中学校 学校だより

みなみかぜ



南風

第14号

令和6年3月26日発行

<http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp>

〈学校教育目標〉 進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒

最高です

校長 吉原誠士

巨人の阿部監督は試合後のヒーローインタビューで「最高です」と回答するのが常でした。引退試合で放ったホームランはまだまだ選手として活動を続けられると感じさせる「最高」の一振りでした。現役生活での成績や出会いと、失敗や苦しみとの総計も「最高」だったに違いありません。私たちの1年間も、365日すべてで「最高」な訳はなく、平常の毎日の中に「最高」の日が何回も重なることで、総計が「最高です」と表現できるようになるのでしょう。

「この1年間の学校生活を終えて気分はいかがですか」とインタビュアーに聞かれたら、皆はどう答えるでしょうか。お家の方々はどのようにお考えでしょうか。学校評価の傾向では良好な回答が多いように見えますが、実はきちんと賛否両論あることがわかります。反対を表明できたり、いろいろな言い分を述べたりできるのが健康的だと捉える私にとっては「最高」の地域であり保護者集団でありました。意見が交錯する場合は先入観を捨て、対話や会話を通じてよりよい方向性を目指すことが「最高」への近道です。

赴任以来、本校は「最高の学校」になると信じてきました。これまでも様々な事案はありましたが、現在もいろいろな案件がある中なので「最高です」と宣言するのは楽観的かもしれません。しかし、本校生徒が活動に^{いそ}勤しむ姿は時として感動的でした。学習面のさらなる充実を目指す、意欲に^{あふ}満ち溢れる子どもが多いことも「最高です」。教員同士の仲の良さ、風通しよく会話の多い職員室が生徒により影響を与えたのも事実です。指導にあたる教職員が一丸となって3つの学期を駆け抜けたのも「最高です」。

古人の言う「一年の計は元旦にあり」、学校なら「一年の計は四月一日の朝にあり」でしょうか。始業式ではお互いが顔を合わせて、この先の1年間をどう過ごし、締めくくつかという話をしたいですね。ゴール(目標)を遠く高いところから見ながら、そこに至る道筋を探ることを「俯瞰的^{ふかんてき}に見ながら計画、実行する」と言います。「鳥の目線で見ながら考える」とも言います。風に流されても、微調整して着陸点に降り立つ。そうして「最高の生徒」が「最高の与野南中学校」で「最高の結果」を出し、「最高の保護者」「最高の教職員」「最高の地域の皆さん」と「最高の喜び」を共にする姿を思い描き続けます。

お世話になりました。ありがとうございます。最高です。

今後も明るく力がつく与野南中学校であることを期待いたします。